



ミクロネシア NEWS

2019年11月13日第14号
JICA 青年海外協力隊
ミクロネシア連邦派遣
小学校教育隊員
磯崎 春美（中野区立江原小学校）

江原小学校のみなさん、カセレーリエ！立冬を迎え、寒い冬の訪れを感じる季節となりました。今月は学芸会が行われますね。2年に1度しかない学芸会、わたしはいつもみなさんの演技力や歌、ダンスの才能に驚いていました。学芸会は「自分じゃない誰か」になるチャンスです！おもいきり演技を楽しんでください。

ポンペイに来てから1年4カ月がたち、ポンペイでの生活も残り5カ月を切りました。今まで活動してきたことの成果が少しずつ実り、協力隊としての仕事がとても楽しく感じています。例えば、先生たちへの研修で伝えたことを活用してくれる人が出てきてくれたり、他の学校からも同じ研修をやってほしいとお願いがきたり。地道な活動が実を結んできています。また活動についてもこのニュースで紹介していきます！

さて、今回は「カマディップ（収穫祭）」という行事についての紹介です。ポンペイでは今の時期、ヤマ芋が収穫の時期を迎えています。そこで知り合いの人に招待してもらって、収穫祭に参加してきました。

カマディップとは

ヤマ芋、タロ芋、パンの実が収穫の時期を迎えた際に地域ごとに行われる行事です。



ヤマ芋



タロ芋



パンの実

目的は2つあります。

○自然の恵みに感謝し、収穫のお祝いをする。

○最初にとれた作物をナンマルキ（伝統的なリーダー）に捧げ、みんなで分け合う。

ナンマルキはポンペイの4つの村にそれぞれ存在し、とても階級の高い人です。なので、ナンマルキに話すときは普段話をする時とは別の言葉（尊敬語）を使います。昔からこのナンマルキは、村で獲れた作物を村の住民に分配する役割を担っていました。作物はナンマルキ→村のチーフ（数人いる）→村の人々へと分配されていくのです。

しかし、外国から通貨（お金）が持ち込まれ、生活に必要なものや食べ物はお金で買えるようになってしまったからは、このナンマルキの役目はそれほど重要ではなくなっていました。それでもポンペイの人々は伝統文化を大切にし、現在でもこの収穫祭を行っています。

カマディップの1日

9時 村の人が会場に集まりだします。ナンマルキに捧げるヤム、サカオ（お酒）、生きた豚、そして大量の食べ物が運ばれてきます。道は大渋滞、そして爆竹が鳴り響き、叫び声が響きます。



11時 ナンマルキが登場。村の代表者による収穫に感謝するスピーチが行われます。長いスピーチのあとはナースと呼ばれる建物のステージ（ナンマルキが座っている）にヤム芋や食べ物が運び込まれていきます。一度運び込まれた食べ物はしばらくすると運び出され、人々に分配されていきます。



ナースのステージ



ナンマルキ

12時 お昼ご飯はランチボックスに詰められたご飯が配られます。お弁当の中身はごはんとフライドチキンでした。この頃から豚を焼き始めます。

15時 サカオの根を叩いてつくるお酒、焼かれた豚が分けられていきます。また、数え切れないほどあったヤム芋もそれぞれの村や人々に分けられていきます。



焼かれる豚



サカオ



サカオをつくる人々

ようやく終わったのは4時頃でした。バンドの生演奏で常に音楽が流れ、とてもにぎわっていました。わたしも踊りに参加し、楽しみました。

収穫祭は生き物、作物などの自然の恵みに感謝し、村の人たちとのかかわりを大切にしていける素晴らしい伝統行事です。ポンペイの人々のあたたかさ、「分け合う」ことを大切にする習慣を肌身で感じることができました。



豚の唐揚げとヤム芋のスープ